

家の内外でみられる幼虫類

東京の
生活害虫
12



●アメリカミズアブ幼虫(体長20mm)



●ハナアブ類の幼虫(呼吸管を除き体長15mm)



●ホシチョウバエ幼虫(体長7mm)



●ケバエ類の幼虫(体長20mm)

得体の知れない幼虫が家の内外で見つかって、びっくりすることがあります。よくある例を紹介しましょう。

アメリカミズアブの幼虫

扁平で大型です。ゴミ溜めの排水など腐敗した水中で生活します。成熟幼虫が蛹化場所を探して移動し、室内に侵入することがあります。発生源を殺虫剤(カルバメート剤など)で処理します。

ハナアブ類の幼虫

長い尾(呼吸管)をもち、オナガウジとも呼ばれます。腐敗した水中で生活し、成熟幼虫が移動することがあるため、庭などで発見されます。発生源をウジ用の殺虫剤で処理します。

チョウバエ類の幼虫

小さくて糸状です。室内の小さな水溜まりに発生する例があり、菌ブラシ入れのコップ、花瓶、洗面台の排水トラップなど意外な場所で見つかります。

ケバエ類の幼虫

やや大きく、体に多数の長い毛状突起があります。雑木林などの地面に、晩秋から冬にかけて多数の個体が集団で発生します。真冬には地中に潜り、目立たなくなります。多摩地区でときどき見られ、かつては“地獄虫”と呼ばれました。実害はありません。

